

テーマ「草木染め」



卒園制作

テーマの設定理由

春の散歩先にて、多くの花が咲いていることに気づいた子どもたち。花を集めて水を入れ色が出るか試していると色の変化に気付いていました。色水遊びから更に遊びが広がると楽しくなるかなと担任の思いもあり、色水に紙や布を入れると色がつくことを知らせてみます。早速、色水に紙を入れてみるが上手いかず。そんな時保育室に花の色染の本がありそこから草木染めの実験が始まりました。

4月、花から布を染める実験の始まり。保育室内にIH卓上コンロと鍋を出して煮だし、色々な草花で布を染めてみました。この活動がこいのぼり作りに繋がりました。

玉ねぎの皮むきのお手伝いで出た玉ねぎの皮を見て「染まるかな」…ということでまた実験が始まります。散歩先のシロツメクサや、ヒメジオン、桑の実、へびいちご、ヤマモモと草花の種類が増え、子どもたちから「自分の布を作りたい」という声が聞こえてきました。そこで、1人一枚ランチョンマットを作ることになりました。秋にはクラスTシャツ作りや(びわの葉っぱ、玉ねぎ)、運動会用幕を染めました。卒園が近付くと、布を染めることにも手慣れてきた子どもたち。1人ひとり巾着とコサージュを染め、卒園式は全員お揃いのコサージュを付けました。また、卒園制作にはテーブルクロス(コーヒー、クチナシ、ツバキ)を染めました。コーヒーの粉は園の保護者のお店にいただきに行き、保育室を飛び出して地域とつながる活動にもなりました。また、染めた布を針と糸を使って自分たちで縫う活動にも広がりました。



どんな色に染まるかな…



ヤマモモ(煮出す)
赤紫色

ヤマモモ(酢)
濃いピンク色



様々な材料で染める中で、同じ素材でも染まり方や色によって1つ1つ仕上がりが違うため唯一無二の作品ができました。子どもたちも、染めることが身近になっていたので散歩先で見た草花を「これ染めたらどんな色になるかな？」と興味の幅が広がっていました。想像していた色と違ったり、時にはほとんど染まらなかったりと、思うようにいかない経験もたくさんしたからこそ「次はどうしたらいいかな？」と次につながるような考え方をする力もつき、染めの活動を行えば行うほど子どもたちの探求心が深まっていくのを感じました。

今回の染めの活動を通して子どもの気付きや考える力(思ったようにいかなくても失敗と考えない等)は年長だからこそその姿だと思いました。大人は子どもの気づきや思いから次の展開と一緒に楽しむ姿勢でいることが大切だと感じました。